

【写真】2月27日にであえーる岩見沢において、平成30年度善行少年表彰並びに青少年健全育成功労者表彰の表彰式が開催され、校外生活において広く模範となる活動をされた善行少年に4団体が、青少年の健全育成に功績のあった青少年健全育成功労者に1個人、1団体が表彰されました。

教育広報

平成31年(2019年)3月20日発行
編集・発行 岩見沢市教育委員会
〒068-0024 岩見沢市4条西3丁目1番地
であえーる岩見沢4階

第 43 号

いわみざわ市の教育

—特集—

「岩見沢市立学校における働き方 改革行動計画」を策定いたしました

- ・ 学校・地域元気アップ支援事業
- ・ 岩見沢市教育実践奨励表彰
- ・ 企画展「考古学からみた岩見沢」を開催します
- ・ 依田こども囲碁教室生徒募集のお知らせ
- ・ 教育長室から



岩見沢市教育委員会 Facebook

市内の教育に関する行事の情報、市教委
ホームページの更新情報などを発信してい
ますので、ぜひ「いいね！」してください。
<http://www.facebook.com/edu.iwamizawa>



「岩見沢市立学校における働き方改革行動計画」を策定いたしました

働き方改革行動計画策定の経緯

国の教員勤務実態調査、北海道の「教育職員の時間外勤務に係る実態調査」の結果において、「過労死ラインとされる1週間の残業時間が20時間以上となる教員の割合は、小学校教諭で3割以上、中学校教諭で6割近くを占める」など、看過できない教師の勤務実態が明らかとなりました。

そのため、北海道教育委員会が策定した「学校における働き方改革『北海道アクションプラン』」に基づいて岩見沢市においても「岩見沢市立学校における働き方改革行動計画」を策定し、教育委員会と学校との連携による働き方改革に向けた業務改善を推進することといたしました。

達成目標（計画期間：平成30年度～平成32年度）

- ① 1週間当たりの勤務時間が60時間を超える教員を全市立学校でゼロにする。
- ② 部活動休養日を全ての部活動で実施する。
- ③ 変形労働時間制を全市立学校で活用する。
- ④ 定時退勤日を全市立学校で月に2回以上実施する。
- ⑤ 学校閉庁日を全市立学校で年9日実施する。

具体的な取り組み内容（行動計画から抜粋）

教職員が本来担うべき業務に専念できる環境の整備

- 学校課題に応じて、教育支援センターによる支援体制を継続します。
- スクールカウンセラー、特別支援教育支援員等を活用して学校を支援してまいります。
- 地域との協働による学校を応援・支援する体制づくりに向けて、地域住民が学校の教育活動を支援する「地域学校協働活動」や、保護者や地域住民が学校運営に参画する「コミュニティ・スクール」の導入を進めてまいります。

部活動に係る負担の軽減

- 部活動の休養日や1日の活動時間の基準を設けるなど、生徒や担当教員の健康・安全、ケガの防止、心身のリフレッシュを図ることができるよう取り組みを進めてまいります。



勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実

- 学校職員が休養を取りやすい環境整備のため、月2回以上の「定時退勤日」を設けて教職員の意識啓発を徹底します。
- 長期休業期間中における学校閉庁日を設定します。
夏期休業期間 8月15日前後の3日間（学校の実情に合わせて設定します。）
冬期休業期間 12月29日から1月3日までの6日間



- 教員の事務の負担を軽減するため、学校を対象に行う調査の見直しを行います。
- 学校職員のメンタルヘルスチェックの実施を検討します。
- 各学校に学校行事の精選や見直しの取り組みを推進するように促してまいります。

学校・地域元気アップ支援事業

岩見沢市では、地域全体で学校教育を支援する体制づくりのため、学校のニーズに応じて地域のボランティアを派遣する「学校・地域元気アップ支援事業」を推進しています。

この事業では、地域と学校を繋ぐ「地域コーディネーター」がボランティアの募集や、市内の各小・中学校との調整を行っています。

各学校では、多くのボランティアの方々が自分の特技を発揮しながら、安全で効果的な教育活動の実現に貢献しています。

また、地域の大人たちが学校教育に対する支援を行うことで、地域の絆づくりや活性化にも繋がっています。

どんなボランティアがあるの？

代表的な活動をご紹介します。

- ・放課後や、夏・冬休み中の子どもたちへの学習支援
- ・普段の授業における、子どもたちへの実技指導
例 国語（書道など）、
体育（水泳、スキー、ダンス、柔道など）
家庭科（ミシンの使い方など）
- ・サツマイモの栽培活動
- ・校内の環境整備活動（学校花壇の整理、窓ふき、遊具塗装など）
- ・部活動の指導（茶・華道、バドミントン、バスケットボールなど）
- ・通学路における、子どもたちの登下校時の見守り活動
- ・絵本の読み聞かせ

この他にも、
様々な活動があります。



ボランティアをやってみませんか？

ボランティアは随時募集しています。「自分もボランティアをやってみたい！」、「自分の特技や経験、知識を生かして子どもたちと活動してみたい！」という方は、ぜひ下記までお問い合わせください。

【お問合せ先】
教育委員会指導室 電話 0126-35-5127

平成 30 年度 岩見沢市 教育実践奨励表彰

Iwamizawa City Board of Education

今年度の受賞者を確認することが出来ます。

【携帯電話・
スマートフォンの場合】



【パソコンの場合】

岩見沢市ホームページ

⇒暮らし（画面上段）

⇒子育て・教育

⇒表彰・教育長表敬訪問

⇒岩見沢市教育実践奨励表彰



教育委員会では、毎年、部活動などで活躍した児童生徒や、本市の教育に貢献していただいた個人や団体などを表彰する「岩見沢市教育実践奨励表彰」を行っています。今年度は133名、11団体を表彰いたしました。

がんばりの軌跡



▲鈴木慶士さん（中央小）



▲木村英梨香さん（天使幼）



▲猪股颯響さん（日の出小）



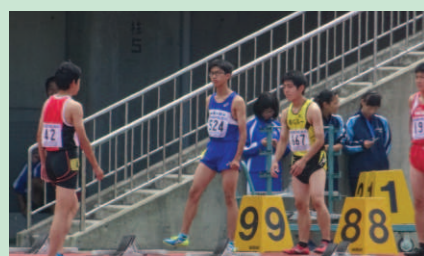
▲男澤和果さん（光陵中）



▲山本晃輝さん（南小）



▲佐藤那留采さん（東高）



▲浦城秀太さん（明成中）



▲緑陵高校男子バレーボール部



▲藤原香夏さん（緑陵高）



▲岩見沢美園スターズ

教育実践奨励表彰式

2月21日（木）、生涯学習センターいわなびにおいて、教育実践奨励表彰式が執り行われました。受賞者を代表し、佐々木啓人さん（緑陵高3年）が周りの方々への感謝と今後の抱負を述べられ、決意を新たにされていました。



企画展「考古学からみた岩見沢

～発掘された先史の遺跡～」を開催します

3月23日から開催！ ご来場お待ちしております！！！！

岩見沢市には、旧石器時代からアイヌ文化期の遺跡が54ヶ所確認されています。岩見沢郷土科学館では、土器や石器などの考古資料を展示し、また企画展を初めて開催し、展示資料の中には、未公開の貴重な考古資料も展示します

開催期間：

平成31年3月23日（土）～5月31日（金）

開催場所：

岩見沢郷土科学館（岩見沢市志文町809-1）



北村幌達布で出土したとみられる土製人形

主な展示品をご紹介します

旧石器時代の搔器（そうき）（1万2000年以上前）

栗沢町由良で出土。動物の毛皮を剥ぐために使用したと思われる石器。石狩低地帯で初めて発見されたことから岩見沢市指定文化財に指定。



加茂川式土器（6000年前～5000年前頃）

縄文時代前期の底が尖った土器。栗沢町加茂川で初めて出土したことからこの名がついた。植物繊維を粘土に混ぜて焼き上げるのが特徴的。器面には「燃糸文」とよばれる棒に紐を巻きつけて施した文様がみられ、煮炊きの際に使用した。



丸のみ形石斧（4000年前頃）

縄文時代中期～後期。空知地方に多く分布する木材加工に使用されたとされる特殊な珍しい石器。栗沢町由良出土のもので岩見沢市指定文化財に指定されている。大正池遺跡で出土したのも企画展で初公開。



北大式土器（1500年前頃）

続縄文時代終末期。栗沢町栗丘の栗丘洞窟遺跡出土。口縁部に丸い穴をめぐらことが多く、胴部に縄文を施したものもある。北海道大学構内で発見されたもの、標識とし、続縄文文化から擦文文化へ移行する過程を知る上で重要な考古学資料。



擦文土器（1300年前頃）

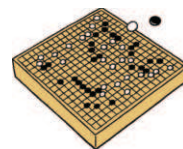
擦文時代前期。幌向A遺跡（現豊中学校校庭）出土。本州東北地方の影響を受けたもの。胴部にへらでこすった痕跡があるためこの名がついた。この他に市内では玉泉館跡地公園の周辺からも出土している。また、志文遺跡から出土した椀には、焼く前の底部に記号が刻まれている。近世アイヌが血統・家系を示すため椀の底に刻んだ「祖印」の原型とみる研究がある。



【お問合せ先】教育委員会生涯学習・文化・スポーツ振興課 郷土科学館 電話 0126-23-7170



依田こども囲碁教室 生徒募集のお知らせ



依田こども囲碁教室は、岩見沢出身の依田紀基九段の「囲碁の楽しさや素晴らしさを子どもたちに伝えたい」という思いに応え、平成11年から始まって、今年で20年を迎える伝統ある教室です。

生涯学習センターいわなびを会場として、12名の指導者が指導にあたり、現在33名の小中学生が土曜日と日曜日の週2日実力に応じてのクラスに分かれ、囲碁教室を行っています

初めての方でも指導者の方々はわかりやすく丁寧に教えてくれるので、どんどん力をつけることが出来ます。

また、依田こども囲碁教室内でのクラス別大会や、8月には「依田紀基杯争奪全道こども囲碁大会」があり、全道各地から多くの仲間が参加します。

その他にも、岩見沢出身の遠藤悦史七段の指導碁や、東京と岩見沢のスタジオを結び、依田紀基九段によるテレビ囲碁教室などが行われています。

囲碁は考える力、判断力が身につくだけでなく、礼儀作法も身につきます。

ぜひ、依田こども囲碁教室で囲碁を始めてみませんか？



↑遠藤悦史七段の指導碁の様子



教育長室から

「子どもが主人公になる 岩見沢の教育づくり」

教育長 三角 光二

教育は、子どもを幸せにするための営みです。

子どもの可能性を最大限に広げ、伸ばし、より豊かな人生を過ごせるように、子どもたち一人ひとりが夢や希望を描き、自分らしさを発揮して自己実現を図ることのできる人に育むことが教育です。そのためには自らを高め、困難にも諦めることなく立ち向かう、人間教育の視点に立った人づくりが重要になります。

子どもは主体的に学ぶ存在であり、どの子にも学びを保障するためには、全ての子どもが学びの主人公でなければなりません。そこで岩見沢では、「子どもが主人公になる教育」に取り組むことによって、どの子も自分が主人公だと実感できる教育実践を目指します。その際、教師の役割は、それを支える立場になります。その核

となるのが授業であり、授業の中でこそ、子どもたち一人ひとりが主人公であると実感できる実践が求められます。

具体的には、子どもの声が響く授業であり、子どもの思考に働きかけ、子ども自身の学びを大切にする授業です。そこには当然、全員参加の学習が当たり前に行われ、勉強することが好きになる授業づくりに取り組む必要があります。さらに、わからない子どもの気持ちに寄り添い、わかりたいという意欲を持って、「わからない」と言える子どもに育てる指導が大切になります。

さて、市内の小中学校においては、昨年度の全国学力調査の全教科で全国平均を上回りました。しかし、目に見える数値だけではなく、より重要なことは子どもの将来を見据えた教育実践に取り組むということです。

岩見沢は、「子どもが主人公になる教育」の実践で、次代を担う子どもたちの育成に取り組んでいきます。